

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600508		
法人名	有限会社 ハッピーファミリー		
事業所名	グループホーム 大社		
所在地 (電話番号)	島根県出雲市大社町中荒木八通2617-85 (電話) 0853-53-2545		
評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地 松江市民活動センター3階		
訪問調査日	平成 19年 8月 6日	評価確定日	平成19年8月28日

【情報提供票より】(19年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人	非常勤 4人 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000	有りの場合 償却の有無	有 期間 4年
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,340 円		

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	9名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院	中島医院	手銭歯科医院
---------	----------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「オシャレ心を大切に日々生き生きとした生活」モットーにしている。運営者は美容室経営者で「継続性・主体性・自己決定」の理念を盛り込んで運営している。自然に囲まれた環境で交通の便もよく、利用者は買い物やドライブを楽しんでいる。純和風の本造作りの落ち着いた建物はゆとりあるスペースとあかるい内部で利用者もオシャレたっぷりで華やかな雰囲気だ。開設3年になり、地域密着型サービスとして一歩々改善課題に取り組み、特徴あるホーム作りへの努力に期待の持てるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営推進委員会を活かした取り組み」「チームで取り組む利用者本位の介護計画」等は、この1年間、家族、地域への発信がなされている。その他職員全員で実現可能なことから改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で取組まれ、職員会議、さらにきめ細かいユニット会議や日誌、連絡ノートを活用して、話し合いををくりかえし、職員間の自主性を尊重しながら検討されている。全ての項目について改善への対応はなされようとしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの行事や予定、日々の暮らしぶり、職員の動向、家族会の様子、避難訓練等々の報告。外部評価や、新しいサービスについての話題等を出して、行政の安心支援センターの参加もあり、運営推進委員会が一緒になってサービスの向上を図っている。会議の報告書が作られ、その内容は全職員で共有している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「ホーム便り」。その他、面会時に個々の意見や相談ごとをいつでも気軽にできるようにして、電話やメールなどでの対応もなされている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との付き合い・交流をどのように進めていくかを話し合っている。地域性もあり、困難が有るだろうが、今後もいっそう、事業所から積極的に働きかけて理解を得ると共に交流できる機会づくりをして欲しい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「継続性・主体性・自己決定の尊重」の理念のもと、職員の積極性を大切に地域密着型サービスへの役割を確認しながら進められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は職員会議、ユニットの会議、日々のミニミーティングにて共有化を図り、利用者個々のために、今、何ができるのかを考えて実践は行われている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者、職員の努力によって、少しずつではあるが、自治会の協力も得られる成果が見られる。さらに今後、児童との交流、ボランティアの生徒受け入れ等予定されている。	○	地域の方々にも、ホームの運営理念と活動を広く理解してもらおうための工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議、ユニット会議、ミニミーティング、等で問題点・課題点を共有し、改善できることから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。活動報告や行事予定・利用者の様子・外部評価で明らかになった改善等を中心に、開催時期に応じた議題の意見交換が行われ、その意見をサービスの向上に活かしている。	○	実績を上げられているので、ホームの規定の中に運営推進会議についての位置づけを明示されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の「安心支援センター」のリードで各ホームから管理者が集まり、情報交換等しながら、市の担当者と共にサービス向上に活かしている。県や市の研修会の講師として連携を図り地域福祉の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り「まめなかね」発送に合わせて利用料の請求、利用者のホームでの暮らしぶりや金銭管理、職員とのかかわり等が報告されている。必要に応じて、電話、メールにて連絡なされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に家族の意見をホームの運営に活かそうとして聞きだすための声掛けの努力もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正職員の比率が高く、この1年間移動なし。職員個々も、意識が高く、目標を持ってチームケアに努めて、働きやすい職場の人間関係作りがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修は、職員平等に機会を設けている。研修参加後は、全体会議にて伝達の研修報告をして、研修の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会を2月に発足。現在は管理者が参加している。事務局として、諸々の調整役をしている。	○	職員の交流会については、年内に勉強会(事例研究会)を開き、情報交換、交流が計画されているので実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の気持ちを最優先し、十分に納得してから利用してもらう。家族も含めてホーム見学をいつでもできるようにし、又、必要に応じて職員が家庭に向く対応により生活移行への支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳を第一とし、お互いが協働しながら穏やか生活ができる場作りを心がけて、畑や花壇の世話、食事作りでは味付け・味見等。片付けでは食器ふきなど、入居者のできる範囲での協力を得ている。人生の先輩から教わることが多い(魚のさばき、畑仕事など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情から、希望や意向を把握するように努めている。職員全体で確認しあいながら、またセンター方式を参考にしながら対処している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望をもとに、スタッフ全員で協議、検討されたうえで、担当スタッフ中心に利用者の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当スタッフを中心に本人の希望、家族の意向もいれ、利用者一人ひとりの状況確認をし、それをもとに関係者と話し合い、現状に即した介護計画作りや見直しを実践している。	○	よりいっそう希望に沿った緻密で具体的な介護計画の作成。また継続の場合でも、見直しされた日時を記入をされればより判りやすい。1ヶ月に1回を目標にした見直しを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に協力医療機関と連携を取り、利用者の通院の支援、入院した場合も早期退院できるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を受けて、かかりつけ医をきめている。協力医院とは日頃から、何でも相談できる関係づくりができています。職員も利用者も全面的に信頼し、健康管理については安心して生活している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医との連携を図り職員も同じ方向で取り組むために、すでに情報共有されている。今回、実際にホームにて家族立会いで看取りを体験された。職員もこの体験を通して看取りに対しての対応出来る自信ができた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に相手の立場になつて考え、声掛け・行動をすることで尊厳を守る支援を心がけること、個人情報を保持しているホームの責任の重さを全職員が共有している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせた支援し、「ゆっくり・ゆったり、急がない」をモットーに、一人一人の希望を聞きながら対応してる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者がテーブルを囲んで、ゆったりと食事をしている。さりげない介助や、言葉かけ等もできている。おかずの一部が口に合わない方には、直ぐ対応して、食べやすいような細かい配慮もできている。男性の方も生き生きとして、盛り付け、配膳されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日可能、時間は自由、夜間も可、朝シャワーされる人もあり、畑作業をやられるので、シャワーの利用も多い。外出もよくするので温泉へいくこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のそれぞれが得意分野で力を発揮されている。「畑仕事、調理、絵画、ちぎり絵、絵手紙、）玄関、廊下、食堂、などに素敵な作品が展示してある。畑にピーマンがたくさんできていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ニーズに合わせた外出支援している。食材の買出しには、楽しみにしている人もいる。夫婦で利用者の方は、美術館、展覧会によく行かれる。全体でも季節に合わせて歌舞伎、花見、紅葉狩り、駅伝応援など多彩に取り入れられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間玄関のみ。日中は、利用者の様子を、職員が共に生活する中で察知し、安全面に配慮しながら、自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で月1回避難訓練実施、水害・災害時についても地域への要請は運営推進委員会会議などを通じてお願いしている。今後、仔細についてきめ細かい対応を予定している。	○	計画的な避難訓練等はできているが、災害にそなえた物品等の準備はされていない。水や食料等、2～3日間程度の備蓄準備が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握は日誌の中に記録され全職員が常に確認し、把握するようになされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	純和風で、玄関、廊下も広いスペースが確保され、中庭にはウッドデッキもあり、イスもおかれるなど明るくて落ち着いた建物。玄関、食堂などの壁には利用者の作品が掲示・展示されており、目を楽しませてくれる空間作りがなされている。季節感ある花も添えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台・クローゼット以外は、全て利用者の持ち込みで自分に合わせた部屋作りができるようになっている。畳の部屋、ベット、イスの部屋あり。家具・カーテンも各部屋は個性的にセッティングされていた。		